

アサヒホールディングス株式会社

2022年3月期 第2四半期決算説明資料

2021.10.27

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



I. 2022年3月期 第2四半期決算

(2021年4月~2021年9月)

Financial Results for Q2 FY2022.3

II. 参考資料

Appendix

貴金属事業が好調 連結業績を牽引

増収増益を達成

売上収益：969億円（177億円増）

営業利益：137億円（19億円増）

〔単位：億円〕

	2020年度 2Q	2021年度 2Q		2021年度 通期	
	実績	実績	前期比 増減	予想	前期比 増減
売上収益	791	969	177	1,900	252
営業利益	118	137	19	260	9
営業利益率	14.9%	14.1%	△0.8%	13.7%	△1.6%
税引前利益	119	136	18	260	△1
当期利益 ^{※1}	82	97	14	182	△75
設備投資	29	32	3	71	18
減価償却費	12	13	1	27	2

※1 親会社の所有者に帰属する当期利益

貴金属事業

国内・アジアの貴金属リサイクル分野は、IoTやスマホ等の製造関連の回収量は増加したが、自動車関連の回収量が減少。北米精錬分野は、製品加工・販売が増加。

分野	事業環境
デンタル	感染症対策に伴う予約調整による患者数制限が続いており、回収量は減少
宝飾	買取需要低下などの影響で買取業者からの回収量は減少、製造系の回収量は復調し回収量が増加
触媒	半導体供給不足による自動車販売数の減少などの影響を受けて、回収量は減少
エレクトロニクス分野	車載系の減産影響がみられるが、5G関連の生産が好調で回収量は増加
北米精錬	製品加工・販売などの取引が増加

環境保全事業

教育機関からの回収量はほぼ横ばいを確保し、自動車業界や医療業界、化学産業からの回収量は増加したが、建設業界や外食業界は依然として低迷。

業界	事業環境
教育・研究機関	ほぼ横ばいの回収量を確保
建設	材料価格上昇等の影響もあり減少傾向。木くず、板ガラスなどの回収量は減少
自動車	鍛造系部品メーカー等からの廃液回収量が減少
食品	外食需要は依然低迷しており、残渣物やガラスびんの回収量が減少
医療	医療系廃棄物の回収量、焼却処理量は増加
化学	消毒薬関連等の回収量が増加

貴金属リサイクル事業分野(国内・アジア)

2021年度2Q実績

貴金属価格上昇と貴金属販売量の増加

→増収・増益

北米精錬事業分野

2021年度2Q実績

裁定取引は減少したが、精錬取引量、製品加工・販売が増加

→減収・増益

(単位:億円)

貴金属	2020年度 2Q		2021年度 2Q		2021年度 通期	
	実績		実績	前期比 増減	予想	前期比 増減
売上収益	700		882	182	1,710	262
営業利益	114		143	29	247	7
利益率	16.2%		16.2%	△0.1%	14.4%	△2.2%

〔単位：kg〕

貴金属 リサイクル 回収量	2020年度 2Q	2021年度 2Q	
	実績	実績	前期比 増減
金	9,065	7,573	△1,492
パラジウム	3,384	2,999	△384
銀	35,270	34,016	△1,253
プラチナ	2,098	2,385	287

〔単位：円〕

貴金属 価格 (1gあたり)	2020年度 2Q	2021年度 2Q	
	期中 平均価格	期中 平均価格	前期比
金	6,249	6,395	102%
パラジウム	7,185	9,287	129%
銀	71.3	91.6	128%
プラチナ	3,000	3,985	133%

環境保全事業

■ プラス要因

産業廃棄物回収量の増加。処理単価の引き上げ

■ マイナス要因

インターセントラルの連結除外、新炉稼働に伴う減価償却費増

→減収・減益

(単位:億円)

環境保全	2020年度 2Q	2021年度 2Q		2021年度 通期	
	実績	実績	前期比 増減	予想	前期比 増減
売上収益	91	86	△5	190	△10
営業利益	17	15	△2	43	5
利益率	18.7%	17.6%	△1.1%	22.6%	3.4%

〔単位:億円〕

	2021年 3月末	2021年 9月末	増減	備考
流動資産	1,920	2,041	121	
営業債権	1,008	1,143	136	営業債権残高の約9割および増減額の大部分は北米事業における前渡し等のための借入金見合いの債権。
棚卸資産	635	587	△48	棚卸資産残高および増減額のほぼ全てが貴金属リサイクル事業における貴金属含有物の回収原料/仕掛品/製品。回収時に貴金属含有量を分析してから仕入れていること、また仕入れと同時に先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、価格変動リスク、品質劣化リスクともに極めて限定的。
その他	277	310	34	
非流動資産	528	518	△11	
資産計	2,448	2,558	110	
負債	1,469	1,477	8	
社債及び借入金	1,048	1,097	48	借入金残高の約9割は北米事業における前渡し等のための借入金。原料入荷後に貴金属含有量を分析し、その範囲で借入を行っていること、また借入金の返済期日にあわせて先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、価格変動リスク、貸倒リスクとも極めて限定的。
その他	421	381	△40	
資本	979	1,081	102	
資本負債計	2,448	2,558	110	

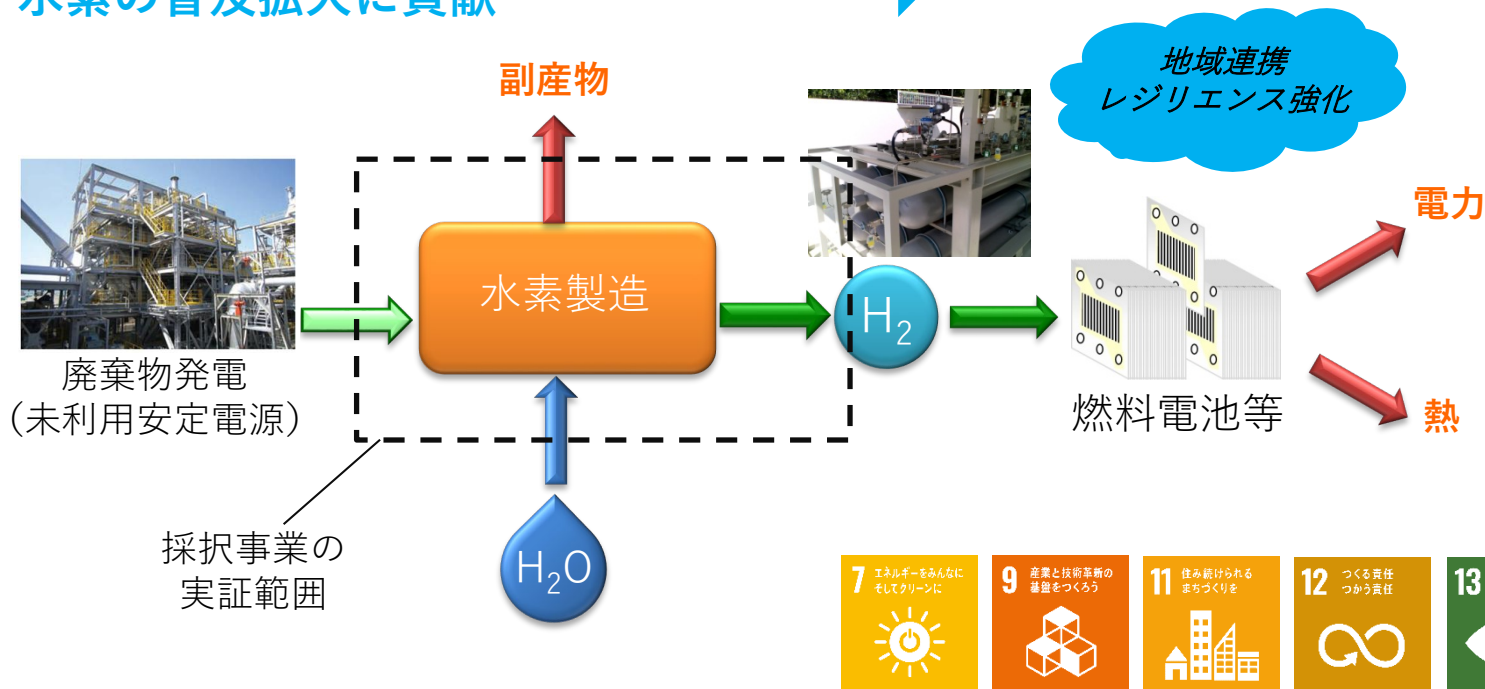
〔単位:億円〕

	2021年度 2Q	備考
営業活動によるキャッシュフロー	60	
棚卸資産の増減額	46	減少額のほぼ全額が貴金属リサイクル事業における 貴金属含有物の回収原料/仕掛品/製品の減少額 。回収時に貴金属含有量を分析してから仕入れていること、また仕入れと同時に先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、 価格変動リスク、品質劣化リスクともに極めて限定的 。
営業債権及び その他の債権の増減額	△142	増加額の内、 △158億円は北米事業の前渡し等のための借入金見合いの債権の増加額 。原則として原料入荷後に貴金属含有量を分析し、その範囲で借入を行っていること、借入金の返済期日にあわせて先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、 価格変動リスク、貸倒リスクとも極めて限定的 。
営業債務及び その他の債務等の増減額	54	増加額の内、 15億円は北米事業の前渡し等のための借入金 の増加額。借入金の増加額の内、北米事業の前渡し等のための借入金の増加額は、財務CFではなく、営業CFの営業債権の増加額として表示される。この借入金はすべて前渡し等のためのメタル調達に使われるため、 品質劣化リスクや貸倒リスクはない 。先物取引で貴金属価格をヘッジしているため、 価格変動リスクも極めて限定的 。
その他	102	
投資活動によるキャッシュフロー	△28	
財務活動によるキャッシュフロー	△48	
借入金の増減	5	
配当金の支払い額	△35	
その他	△18	
換算差額	7	
現預金の増減額	△9	

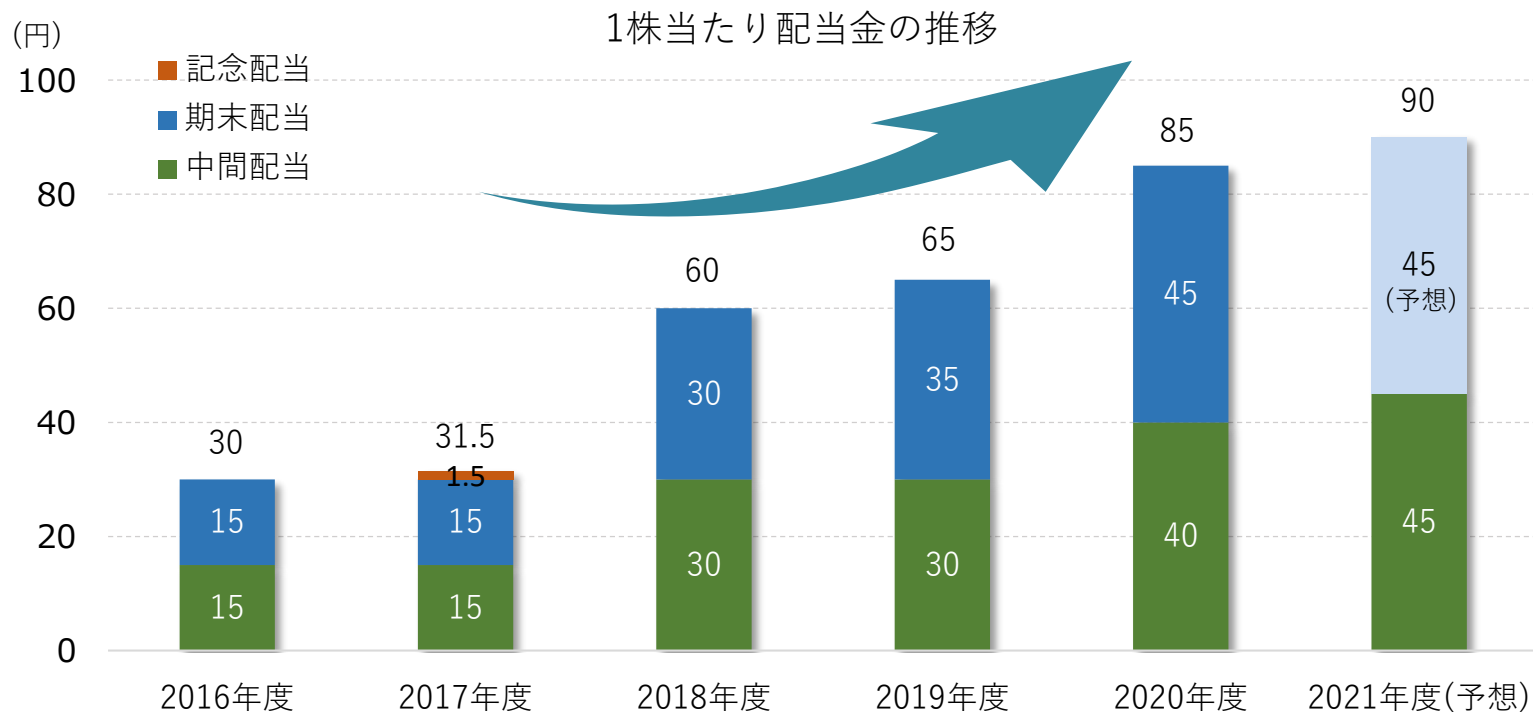
- アサヒプリテック(株)は、環境省の「CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業」において、エフシー開発株式会社、株式会社X-Scientia、三井住友信託銀行株式会社と共同で、「グリーン水素サプライチェーン構築に向けたシステム開発」を提案し、補助事業として採択
- 廃棄物発電所における未利用の電力を活用し、水素の製造原価を大幅に低減することが可能な水素製造システムを開発
- 安価な水素を製造・外販することで水素の普及拡大に貢献し、温室効果ガスの排出削減に繋げる

副産物の販売により事業性を確保し
水素の普及拡大に貢献

CO₂排出削減



基本方針：成長戦略のための設備投資やM&Aに必要な内部留保充実を図りながら、配当性向40%を目処とし、現在の年間配当水準から目減りさせず、安定的に配当を継続する



1株当たり利益(円)	△18.62	135.39	114.07	125.12	326.90	231.27
配当性向(%)	-	23.3	52.6	52.0	26.0	38.9

※2021年4月1日に1:2の株式分割を実施しており、2020年度までの1株当たり配当金および1株当たり利益は分割後のベースに換算して表示



I. 2022年3月期 第2四半期決算
(2021年4月~2021年9月)
Financial Results for Q2 FY2022.3

II. **参考資料**
Appendix

貴金属リサイクル事業

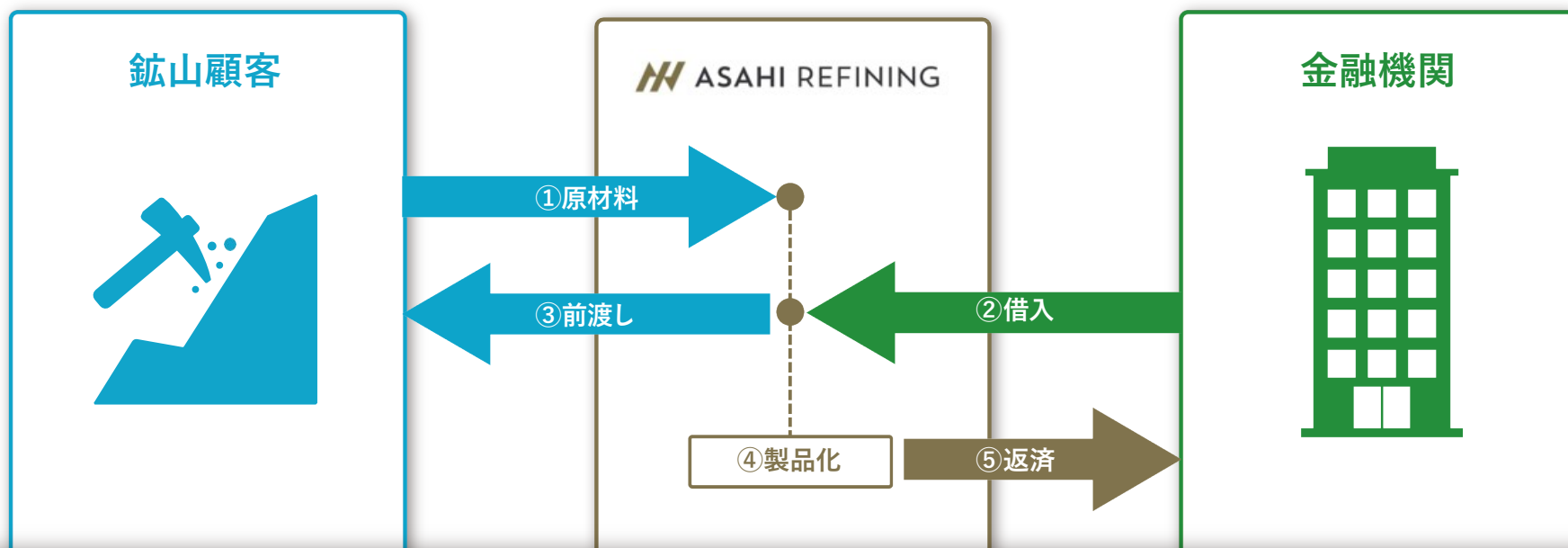
精錬手数料は固定的な安定収益。
そこに収率差異による収益がプラス。

北米精錬事業

精錬手数料は安定収益。金融収益は原料入荷量が増加すれば収益機会が増える。

事業分類	区分	収益影響
貴金属リサイクル	精錬手数料	<ul style="list-style-type: none"> ■ 回収量が増えれば精錬手数料は増加する。 ■ 精錬手数料の単価は前処理が難しいものほど単価が高くなるため、難処理物の回収割合が高くなれば平均単価は高くなる。
	収率差異(実収率と契約収率との差異=フリーメタル)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 技術力向上、工程改善により、実収率が上がればフリーメタルが増加する。 ■ 相場が上昇すればフリーメタルによる収益が増加する。
北米精錬	精錬手数料	<ul style="list-style-type: none"> ■ 精錬原料(ドーレ)の入荷量が増えれば手数料は増加する。 ■ 長期契約のため手数料単価は短期的には変動しない。
	収率差異(実収率と契約収率との差異=フリーメタル)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 技術力向上、工程改善により、実収率が上がればフリーメタルの数量が増加する。 ■ 相場が上昇すればフリーメタルによる収益が増加する。
	金融収益	<ul style="list-style-type: none"> ■ 原料入荷量が増加すれば金融取引による収益機会が増加する。 ■ 鉱山との間の契約で前渡し金利の利率が改善すれば収益は増加する。 ■ 前渡しの期間が長くなれば収益は増加する。 ■ メタル調達コストが下がれば金利スプレッドが拡大し、金融収益は増加する。

- 原材料入荷から製品返却までの納期を短縮して製品を返却する「前渡し」を提供
- 契約納期前のメタル返却に応じることで、顧客から「前渡し日数分の金利」を得る
- 原材料を受領してから前渡しを行うため、貸倒リスクはない



≫ 仕組み金融等の新たなファイナンスサービス開発

- アサヒプリテック(株)は、2021年7月14日にRJC※（Responsible Jewellery Council：責任あるジュエリー協議会）のCoC認証（Chain of Custody：加工・流通過程管理）を取得
- 2019年7月29日にRJC CoP認証（Code of Practices：行動規範）を取得しており、RJC CoPおよびCoCのダブル認証を取得しているリファイナーは、国内では当社のみ



SDGs重点テーマの1つである「人・社会・環境にやさしい貴金属供給」に対応するため、人権や環境に配慮した貴金属製品として世界中のお客様に安心してご利用いただける「アサヒブランド」の構築と維持に努める

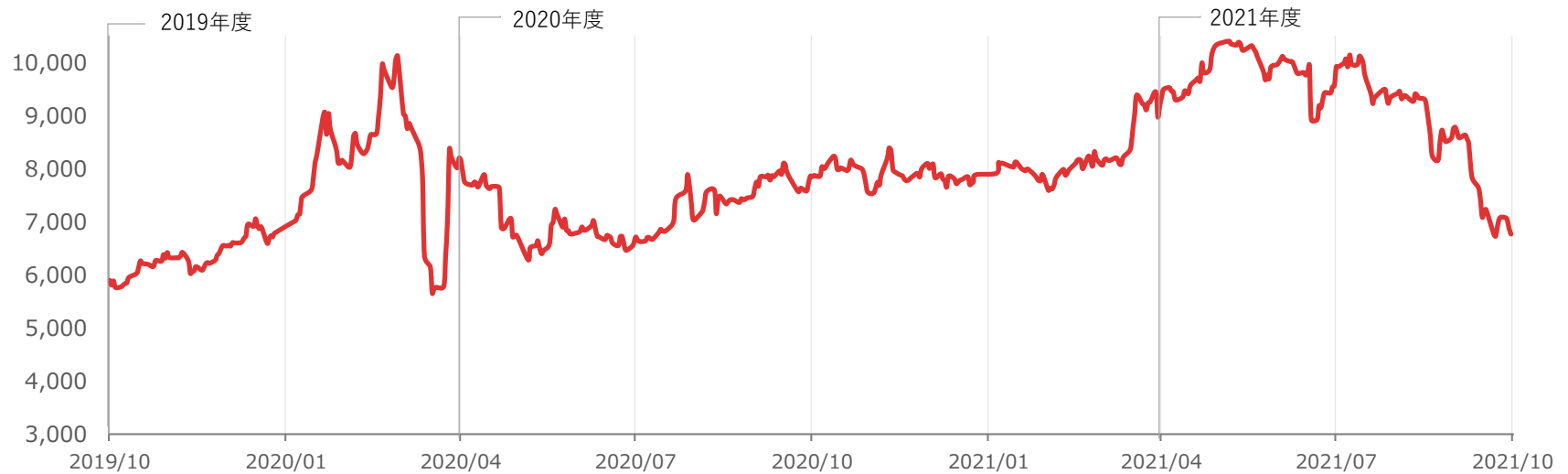


※RJC（Responsible Jewellery Council：責任あるジュエリー協議会）：
金やプラチナ、ダイヤモンドなどを取り扱う宝飾業界を対象とし、取引の透明性や倫理・環境面での取り組みを評価する国際的非営利団体



パラジウム

〔単位：円/g〕



プラチナ

